

若浜の子ども



令和5年7月5日 第3号

「自分から」の行動は 将来の幸せにつながります！

WBCや大リーガーとして大活躍した大谷翔平選手は、グラウンドに落ちているゴミを拾って自分のポケットに入れることで有名です。人が捨てた幸せ（運）を拾って、自分やチームの運に結びつけるのだそうです。すばらしい考え方と行動ですね。

本校の子どもたちの行動も見渡してみても、「自分で考え」、「自分から起こす」行動が数多く見られ、うれしくなります。

- ・ 縦割りそうじが終わった直後でも、落ちているごみを手で拾う姿。
- ・ 保健給食委員会で作る「安全な校舎内の行動」「正しいトイレの使い方動画」
- ・ あいさつリレー後の感想報告。
- ・ 3年生の自主活動「おそうじ委員会」の子たちのはたらきぶり
- ・ アマンマーレの皆さんへの人なつっこくて明るい反応
- ・ 4年生自然教室「カヌー体験」での誰一人手を抜かない片づけの態度



大人や指導者からのその場での注意や指導は、その時は良くなるかもしれませんが、納得度が少ないと長続きしません。言われる前に、自分で気づいて行動化したことは、思いついたことがうれしくて、自信にもなり、一生続くもの、そして、将来の幸せに結びつくものになっていきます。私たち大人は、子どもたちが「自分で気づける」ように、「仕掛けをつくり、待ち、誉めていくこと」に徹していくようにしていきたいと思っています。

「出会うすべての人を 幸せにする旅に！」

若浜小の「すてきな行動」を広めてきました!!

6年間で一度しかない修学旅行。県内コースに限定して4年目となる今年度も、旅行の意義を感じて行くことができました。

写真は、宿泊させていただいたあづま屋ホテルからの出発式で、ホテルスタッフ代表の方にお礼のお辞儀をしている場面です。温かなおもてなしを受けたことに対する感謝の気持ちを表します。あまりのお辞儀の深さにスタッフの方が感動していました。



旅のスローガンは、「出会う全ての人を 幸せにする旅にしよう」でした。送り出してくれたご家族、いっしょに行く友だちや先生方への気づかい、出迎えてくれる施設や旅館の皆さん、途中ですれ違う一般のお客様たちへのあいさつ…対人意識を高め、相手への敬意をもち、全ての人に感謝やお礼の気持ちを伝え、「若浜小の温かさ」を多くの方々に広げ知らせながら、山形県のよさを発見することができました。

自分たち自身に、「よりよく生きるプライド」がないと、相手を幸せにすることができないと気づくことができたのもすばらしかったです。



狩猟時代の文化を真剣に体験しました。



この時期だからこそ、さくらんぼ狩りの楽しさを味わうことができました。



山寺立石寺への千段上り。心の迷いや汚れを取り払います。



県花の紅花染め体験です。